

第48回 書籍の紹介・・・無理なく「テレワーク」を導入するためのテキスト

以前、身体障がい者や一人親世帯の就労支援としての「在宅ワーク」が話題になったことがありますが、このときはあまり普及しなかったと思います。当時の背景として、(私自身もそうですが)現場現認や対人コミュニケーションへのこだわりが強いことや、情報セキュリティ上のリスクへの懸念、当時はそもそも在宅ワーク向きの仕事が少なかったことがネックになったのだと思います。

さて、皆様もご存じの通り、通勤時や職場での感染防止という観点から、「テレワーク」が恐ろしいほどの勢いで普及しています(・_・;)。この流れは、新型コロナウイルス感染症が収束に向かったとしても、あまり変わらないでしょう。なぜなら、テレワーク化は中長期的に見ても時代の流れだからです。逆に、テレワーク化に対応できない事業者は、生産性や人材確保でライバルに遅れをとり、やがては消えてゆくことになりかねません。

かつて「テレビ会議」などと言えば大企業にしか手が出ないような世界でしたが、最近では中小零細企業でもZOOMなどを使ったWEB会議が普通に行われています。また、会社のサーバーに数千円のルーターをつなぎ、自宅のパソコンでWindows10等の機能をセットするだけで、本格的なテレワークが可能になってしまいます。技術的な課題は、情報セキュリティの確保にどこまでコストをかけるか、という点に絞られてくるでしょう。

人的・社会的な課題として、雇用型テレワークであれば労務管理のあり方に多少の修正が必要になることはあります。それ以上に大きな課題は、テレワーク向きの業務を抽出することと、人の意識を変えることです。

今回紹介する『テレワーク導入・運用の教科書』(一般社団法人日本テレワーク協会編、日本法令)は、主に中小企業に向けて、テレワーク導入の手順、テレワークのための社内制度、テレワークのためのシステム・セキュリティ対策などなどについてわかりやすく説明したものです。これ一冊を読み込んでおけば、コンサルタントやベンダに頼り切らずに、皆様の事業所で主体的にテレワークを導入して行けるでしょう♪

なお、テレワーク導入のための労務管理上の問題について深く勉強したい方には、『テレワーク導入の法的アプローチ トラブル回避の留意点と労務管理のポイント』(末啓一郎著、経団連出版)をお薦めしておきます。